

代表学生にインタビュー アフリカ・ウィークス学生企画 写真展・雑誌制作などに取り組む



1面で掲載しているアフリカ・ウィークスでは、学生有志によるさまざまな企画が実施された。本学の実践型プログラム「アフリカに学ぶ」を受講した学生と、公募で集まった学生の計23人が運営を担当した。代表

の奥彩華さん(法国3)と大谷日向子さん(外英3)に話を聞いた。

▼運営に携わったきっかけは「(奥)アフリカに学ぶ」の第7期としてカメルーンに渡航した際、想像と学生企画を通してその乖離を伝えたいと考えたからです。(大谷)私も「アフリカに学ぶ」の第8期に参加し、南アフリカに渡航したことがきっかけです。多くの刺激を受け、何らかの形でアフリカに関わりたいと思いました。

▼ワークシopp、発行した雑誌を手にする奥彩華さん(右)、大谷日向子さん(奥)コロナ禍のため、学生企画の認知度も上が

オンライン写真展、雑誌制作など盛りだくさんの企画は、どのように考えましたか

(奥)複数の企画でも趣旨の統一を図るべきと考え、学生企画全体のテーマを「つながり」としました。写真展・雑誌企画はどちらから「発信」し、「トーク企画」では双方向的に「つながり」を捉えることができるように考えました。

(大谷)メルルの返信が遅いなど、アフリカ現地の方との連絡に苦労しました。途中からSNSを使うようにし、互いの顔や人となりが分かることで心理的距離が近づきコミュニケーションを取りやすくなりました。

▼参加者や周囲の反響は

(奥)上智生に限らず多くの方に参加いただき、アフリカ・ウィークスと学生企画の認知度も上が

キャリアセンター主催

人事の本音にインタビュー

企業・団体の現役採用担当者が参加

5月17日、キャリアセンター主催ガイダンス「人事の本音にインタビュー」が、学部3年、大学院博士前期1年をはじめ全学生を対象にオンラインで開催され、約300人が参加した。「求める人材像」「インターンシップの目的」などを4つの企業・団体の現役採用担当者(バイタリティ、本気さ、挑戦マインドを持つ人)などが挙げられた。合わせて各担当者から、なぜその人材を求めるのか

ベネッセコーポレーション(教育)。各社3分間の自社紹介の後、パネルディスカッション、質疑応答が行われた。

求める人材像について「成長意欲がある人」「課題について考え続けることができる人」「現状に疑問を持って在るべき姿を考え、実現するために動ける人」「チームとして成果を出せる人」

「バイタリティ、本気さ、挑戦マインドを持つ人」などが挙げられた。合わせて各担当者から、なぜその人材を求めるのか

の説明があった。続いて、インターンシップの目的については「組織、人、やりがいを感じてほしい」「入社前に、自分が仕事に適切であるかを判断してほしい」「ミスマッチの防止」などの話があった。他にもインターンシップに関して「具体的な選考方法」「選考時に採用担当者は何を求めているか」「本選考とインターンシップとの関係」などさまざまなアドバイスがあった。

終了後のアンケートで、その視点を活かした

キャリアセンターガイダンス一覧

開催日	開始時刻	名称	開催方法
6月8日(火)	17:20-18:50	大手企業・外資系企業・コンサルティング企業を希望する外国人留学生対象 早期就職試験準備対策ガイダンス	ライブ配信
6月17日(木)	19:10-20:50	インターンシップ対策:フォローアップガイダンス	
6月22日(火)	17:20-18:20	知らない?損する?インターンシップマナー講座	

※最新情報・詳細はWEBキャリアセンターのガイダンス情報を確認ください。([Loyola>就職・キャリア支援>ガイダンスはこちら]より)

い」などの感想が寄せられた。

ドイツ文学科×デュッセルドルフ大学 学生オンライン交流プラットフォームを立ち上げ

語学学習と文化交流に取り組む



今学期より、文学部とドイツの協定校であるデュッセルドルフ大学の学生たち

「O」ポーズをとる両大学の学生たち

が、語学学習と文化交流を目的とした交流プラットフォームを立ち上げた。

ドイツ文学科では、2年次の秋学期にオンラインで「日本語中級・上級オンライン学習コース」と、「ドイツ語集中的にドイツ語を学ぶ」

が現地で感じたアフリカ(ドイツ文学専攻前2)と齋藤有香さん(言語専攻前2)の「アルバイト」や「就職活動」など学生生活に関することや、「祭活」に関する話や、「J-pop」など日本文化に関する話や、「異文化を学ぶ」という熱い気持ちがあるが、「異文化を学ぶ」という熱い気持ちがあるが、「異文化を学ぶ」という熱い気持ちがある

と声を弾ませている。ドイツ文学科の小松原由理准教授は、「コースのデザインを、学生が自分たちの目線で作成することにも大きな意味がある」と考えている。コロナ禍という厳しい状況ではあるが、「異文化を学ぶ」という熱い気持ちがあるが、「異文化を学ぶ」という熱い気持ちがある

東ティモール「聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院」災害支援募金

学生・教職員から多大な協力と支援

東ティモールでは、4月4日に発生したサイクロンに伴う大雨で土石流

メンストでの募金の呼びかけに応じる学生たち



や地滑りが相次ぎ、首都ディリ市内だけでも40箇所以上で発生した。避難民は1方3000人以上に上り、自宅の浸水被害に上り、自宅の浸水被害にあつた人は2万人を超えた。イエズス会日本管区からイエズス会を派遣し、上智学院もさまざまな

パズミニストリーMAG I.Sプログラム、職員ならびに学生有志とともに、東ティモール「聖イグナチオ・デ・ロヨラ学院」災害支援募金を実施し、学生および教職員から多大な協力と支援があった。

なお、この募金活動は現在も継続して行われており、カトリック・イエズス会センター内常設募金箱のほか、銀行口座も開設している。口座情報の詳細は次のとおり。

東京に緊急事態宣言が発令される前の4月22日、カトリック・イエズス会センターは、学生NGO団体Haluz、カトリック学生の会、上智ローバース、ソフィアキャン

水野一名誉教授逝去 2月2日 日死去。90歳。同教授は1930年東京生まれ。53年東京外国語大学卒業。日本経済新聞社、日本経済研究センター勤務を経て、69年外国語学部専任講師に就任、70年同助教授、72年同教授、96年特選教授、97年特別契約教授。01年から本学名譽教授。ポルトガル・ブラジル研究センター所長などを務めた。著書に『ラテンアメリカの環境と開発』など。

吉田裕名誉教授逝去 3月24日 日死去。89歳。同教授は1932年秋田県生まれ。55年東北大学文学部社会学科卒業、57年同大学院文学研究科社会学専攻修士課程修了。60年同博士課程満期退学。明治学院大学を経て、68年文学部助教授に就任、71年同教授、97年特別契約教授。01年から本学名譽教授。著書に『現代青年の意識と行動』(共著)など。専門は産業社会学、組織社会学。